

# I 大学薬学部の現況及び特徴

## 1 現況

(1) 大学薬学部・薬学科名

北海道医療大学薬学部・薬学科

(2) 所在地

北海道石狩郡当別町字金沢 1757

(3) 学生数、教員および職員数

北海道医療大学(旧東日本学園大学)薬学部の入学定員は、昭和49年の学部開設以来120名であったが、北海道内における薬剤師地域的偏在状況の改善を一義の目的として、平成14年に入学定員を30名増の150名とした。平成18年度の6年制移行後もこの定員を維持している。また従来の4年制教育において薬学部では平成14年から2年次編入学生(10名)の受け入れを行ってきた。6年制への移行に伴い、平成18年度及び平成19年度は編入学試験を実施しなかったが、平成20年度より3年次編入学(10名)を行っている。薬学部の収容定員は940名である。

薬学部在籍学生数 (平成22年3月1日現在)

第1学年	171名
第2学年	175名
第3学年	156名
第4学年	142名
計	644名

薬学部専任教員数 (教養教育担当教員を含む。平成22年3月1日現在)

教授	21名
准教授	15名
講師	19名
助教	12名
計	67名

職員数 全学：132名(専任職員62名、常勤嘱託職員6名、兼務職員64名)

薬学部担当事務職員：3名

## 2 特徴

北海道医療大学(旧東日本学園大学)は、「知育・徳育・体育の三位一体による医療人としての全人格完成」を建学の理念として昭和49年に設立され、薬学部は本学最初の学部として同年に開設された。以後、歯学部(昭和53年)、看護福祉学部(平成5年)、心理科学部(平成14年)が開設され、一方大学院も昭和53年に薬学研究科が設置されたのに続き、昭和63年に歯学研究科、平成9年に看護福祉学研究科、平成18年に心理科学研究科が順に設置され、北海道を代表する医療系総合大学として今日に至っている。

本学は、「幅広く深い教養と豊かな人間性の涵養」、「確かな専門の知識及び技術の習得」、「自主性・創造性及び協調性の確立」、「地域社会ならびに国際社会への貢献」を教育目標とし、薬学部での薬剤師養成に加え、歯科医師、看護師、保健師、社会福祉士、精神保健福祉士、言語聴覚士など、多彩な専門職能人の養成に努めている。学部横断的な授業体系としてとして学部を超えて提供される教養教育を中心とした全学教育がスタートし、また、4学部の教員が兼任講師として他学部の授業を担当することで、幅広い医療人教育が進められている。

本学薬学部では昭和49年の学部設置(薬学科・衛生薬学科)以来、教育理念に基づき社会に有為な薬学人・薬剤師教育を実践してきた。平成8年には、医薬・医療の総合的な薬学教育の展開をめざして、薬学科及び衛生薬学科の2学科体制を「総合薬学科」の1学科体制へ改組した。また、同時に福祉関連領域への薬剤師進出をも視野に入れたカリキュラムを編成した。このカリキュラムは日本薬学会の作成した6年制薬学教育モデル・コアカリキュラムを意識し、本学部教育理念・目標に沿って作成された。さらに、本学の建学理念と教育理念に基づいた行動指針が設定され、質の高い医療人の養成を薬学部の目標に掲げて、平成18年度より6年一貫教育体制となった。

平成21年3月における薬学部卒業生は4,640人、大学院修了生は476名に上っている。

薬学部への入学者は、以前は北海道外出身者が5割以上を占めた時期もあったが、最近では志願者及び入学者に占める北海道内出身者の比率が大きくなり、平成21年度には、北海道内出身の入学者は全体の約85%に達している。このように本学の薬剤師教育は北海道内の地域医療を担う薬剤師の育成へと確実にシフトしている。

本学では、以下の観点から6年一貫薬学教育課程の特徴付けを行い、知識教育・態度教育・技術教育を統合的に推し進めている。

1) 教科内容の系統化：

基礎薬学科目(準備教育を含む)・医療薬学科目・社会薬学科目に分類し、各系内及び各系間の関連性を明確化する。

2) 補正科目と教養科目の充実：

高校カリキュラムの多様性に対応し、特に化学・生物の補正教育科目を1年次に配当する。また、補習科目として、2、3年次に物理化学系、有機化学系、生化学系の特別演習を配当している。

3) 全学教育科目による医療系総合大学としての教育：

本学の教育理念・目標を踏まえて、教養教育を中心とした「全学教育科目」を配置すると同時に、本学の行動指針「患者中心の医療」、「21世紀の新しい健康科学の構築」に則り、1年次前期には、全学共通科目として「個体差健康科学」を実施している。

4) モチベーションを高めるための教科の充実化：

1年次の「早期体験学習」、「薬学概論」、「医療薬学概論」などの授業を通して、6年間の膨大な授業科目の位置づけを理解し、自己の薬剤師像や学習目的を明確化させる。

5) 社会薬学系科目の充実：

地域医療・福祉に関わる薬剤師の役割をより深く学ぶために、「医療人間学」、「医療倫理学」、「医療福祉論」、「在宅ケア論」、医療コミュニケーション」などの科目を多数配当した。

6) 実務実習への対応：

従来から開講している医療薬学Ⅰ及びⅡ実習に加え、事前学習(医療薬学Ⅲ実習)及び実務実習前特別実習では病院薬剤部や保険薬局と同様の設備を備えた臨床実習室で臨場感のある実務実習を行う。

7) 科学者としての薬剤師教育：

2年次より自由選択科目として薬学基礎研究Ⅰ～Ⅲを設け、学生が希望する講座で実験研究を体験しながら、科学的なものの見方、問題解決能力あるいはプレゼンテーション能力の涵養による卒業研究に向けた基礎知識・技術・態度を身につける。